

姉妹都市シドニー市との交流

2011年4月
名古屋市東山動物園

名古屋市とシドニー市は1980年9月16日に姉妹市提携を結びました。以来30年にわたり多くの人物交流を初めとする各種の親善交流が続けられてきました。なかでも東山動物園とシドニー市のタロンガ動物園とはコアアラを初めとする動物交換と職員交流が活発に行われてきました。昨年はちょうど姉妹都市提携30周年を迎え、シドニー市のタウンホールで30周年記念式典を行うとともに、タロンガ動物園で東山動物園とタロンガ動物園との間で動物交換式典を行いました。

1 動物交換式典

11月3日、タロンガ動物園内のファンクションセンターにおいて、名古屋市からは河村市長、横井市議会議長、友好市民団、国際交流課職員、東山動物園職員らが出席し、動物交換式典が開催されました。式典では河村市長とタロンガ動物園長キャメロン・カー氏との間で交換動物の写真の交換が行われました。その後、軽食付きの懇談会が和やかに開催されました。ちょうど、この日は好天に恵まれ、この会場から望むシドニー湾の眺めは最高でした。



交換動物の説明をしている河村市長



式典会場の様子

今回の動物交換ではタロンガ動物園から雄のコアラ1頭の寄贈を受け、東山動物園からは雌のコツメカワウソ1頭を贈りました。コアラはオーストラリアの代表的な動物であることから、海外へ移動する前5日間を受け入れ側の飼育担当者がコアラと一緒に過ごすことが義務付けられています。東山動物園のコアラ飼育担当者は11月2日にタロンガ動物園入りし飼育研修を受け、11月7日コアラとともにシドニーを出発し、成田経由で11月8日早朝に東山動物園に無事到着しました。

タロンガ動物園職員と東山のコアラ担当者(左)



2 過去の動物交換・職員交流

動物交換は姉妹都市提携を機に、1982年にワライカワセミ6羽を受け入れたのが最初です。1984年には待望のコアラのオス2頭が東山動物園にやってきました。コアラの飼育は日本で初めてのことでもあり、コアラの受け入れに先立ち、エサのユーカリの栽培研修とコアラの飼育研修を受けるため、5人の職員をタロンガ動物園に派遣しました。

この30年の間に東山動物園ではコアラ13頭その他、ウォンバット、アオジタカゲ、西ローランドゴリラの寄贈を受けました。東山動物園からはインドサイ、フランソワルトン(サルの仲間)を贈りました。また、1994年からは職員の相互交流を開始し、飼育職員や獣医師が約1カ月間、相手方の動物園で研修できるようになりました。これにより、動物園同士の絆がより強くなるとともに、飼育技術の向上にも役立てることができるようになりました。

3 姉妹都市交流が展示動物を守る

野生下では絶滅の危機に瀕している動物が多いことは皆さんご存じのことと思います。さて、動物園の飼育動物はどうでしょう。実は、動物園の飼育動物も種によっては絶滅が心配されている動物がいくつもあります。特に日本で繁殖のうまくいっていないゾウやゴリラは、30年後には日本の動物園から姿を消すのではないかと心配されています。コアラも同様です。日本のコアラは最盛期に100頭くらいいましたが、今現在は50頭以下になってしまいました。その理由は日本での繁殖がうまくいっていないからです。最近、オーストラリアからのコアラの導入が少ないことから、日本には血縁関係のあるコアラが多くなり、繁殖相手を見つけるのが困難な状況にありました。解決の方法はオーストラリアからコアラを導入するしかありません。しかし、コアラは売買できる動物ではなく、寄贈してもらう以外方法がありません。昨年11月の東山動物園の飼育コアラは老齢な雄1頭と雌5頭という構成でした。今回、寄贈を受けた若い雄コアラは東山動物園にとって希望の星となりました。

コアラの寄贈が実現したのは、名古屋市とシドニー市が姉妹都市関係にあったからです。姉妹都市交流は人と人との交流により、お互いの国を理解することが目的ですが、動物の導入にも大いに貢献してくれます。また、その動物は人と人を繋ぐ懸け橋にもなってくれます。東山動物園は今後もタロンガ動物園との友好関係を続けることで姉妹都市交流を盛り上げていきたいと考えています。